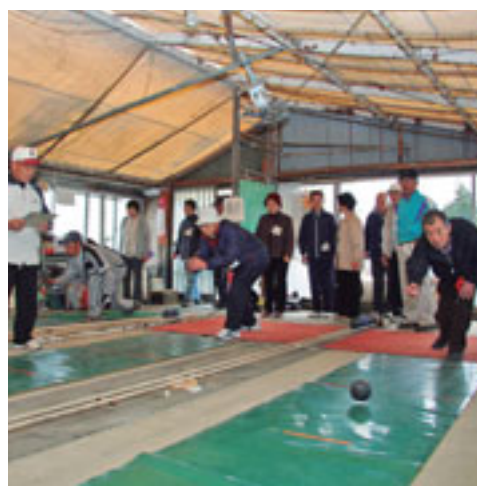


ボウリングをアレンジした新しい形式のスポーツで、子どもからお年寄りまで男女を問わず楽しめるスマイルボウリング。ボウリング場へ行かなくても手軽にプレーできることから全国各地で親しまれているこのスポーツは、本市が発祥の地です。あらゆる年代層が楽しめる新スポーツ種目の開発を目的に、市高齢者スポーツ活動推進委員会が、昭和57年に立案しました。ニコニコ笑いながらともに



今回のテーマ  
「スマイルボウリング」



みんなの声  
スマイルボウリングを通して、町内のお年寄りが楽しくお付き合いしています。  
(岡庭 善雄さん・上細井町)  
ゲートがあるのでボウリングより難しいけど、大変面白いです。ことしの町内の大会で選手宣誓を努めたのが、一番の思い出です。  
(栗原 唯さん・上大島町)

楽しむという願いを込めて「スマイル」と名付けました。  
ルールは簡単。①平らな場所に幅1メートル、長さ10メートルのマットを敷いてレーンとします。②打球位置から数メートル離れたレーン上にゲートを置くのがこの競技の特徴。③1チーム5人で構成し、1投ずつ順番に打球。打球はゲートを必ず通過させてピンに当たります。④10本すべてのピンを倒すまでを1ラウンドとし、打球回数を得点とする。⑤4ラウンドを行い、合計得点が少ないほうが勝ちとなります。  
現在市スマイルボウリング協会には45団体が加盟し、各種大会に参加しているほか、各地域でも盛んに行われています。楽しく遊べる前橋生まれのスポーツで、心地よい汗を流してみませんか。



救急医療用ヘリコプター・ドクターヘリで、フライトナースとして救命活動に当たっている高寺さん。  
「ドクターヘリに乗るまでは救命救急で働いたのですが、患者さんに接するたび、もっと早い段階で処置ができないかと考えるようになりました。フライトナースの話があったのはそんなとき。すぐに参加を決めました」  
事故現場などから医療機関に患者を搬送し、その間に救命医療を行うのがドクターヘリ。消防から出動の要請が入るとすぐに現場に向かう。対象地域は県全域。多いときには1日に4〜5回出動することもあるという。  
「現場では機器だけでなく、五感や経験など、すべてを使って命を救うために



前橋赤十字病院フライトナース

高寺由美子さん 41歳  
文京町三丁目



全力を注いでいます。また、患者さんや家族の不安を和らげるために、声を掛けるようにしています」  
フライトナースだけでなく、救命救急での勤務もあるため勤務日は不定期。そのため家族のサポートなしでは活動することができないという。  
「率先して家事をしてくれる夫や小2の息子には、本当に感謝しています。だからこそ、休みの日には海や山に出掛けるなど、家族で過ごす時間を大切にしています。ことは県民マラソンにも3人で出場したいと思っています」  
これからも助かる命を救えるよう、勉強に励みたいと話す高寺さん。その知識と技術が多く命を救ってくれるに違いない。

クローズアップ

大災害に備えて大規模訓練  
9月25日、グリーンドーム前橋・利根川河川敷駐車場で総合防災訓練を実施。最大震度6強を想定した訓練に、自主防災会や消防隊員などが力を合わせて取り組み、もしもの時に備えました。



赤城山がテーマの作品並ぶ  
9月25日まで、前橋プラザ元氣21で「裾野は長し赤城山展」と「赤城山百景写真コンクール」を開催しました。会場には、本市のシンボル・赤城山を題材にした絵画や写真などがずらり。訪れた人たちは、赤城の魅力あふれる力作を興味深そうに鑑賞していました。



伝統芸能に親しんで  
9月25日、市民文化会館で前橋こども芸能座を開催しました。ふれあい教室などで伝統芸能に親しんでいる子どもたちが、八木節や民謡、剣舞、和太鼓などを発表。練習の成果を一生懸命披露する子どもたちの姿に、観客から惜しみない拍手が送られました。



市政懇談会で活発に意見交換  
9月24日、城南支所で市政懇談会を開催しました。ことしのテーマは「ふれ愛ささえ愛前橋健康長寿宣言」。担当課からの説明に引き続き、高木市長と参加者が意見交換を行いました。終了後、参加者全員が「ピンシャン！元気体操」で、介護予防に取り組みました。